

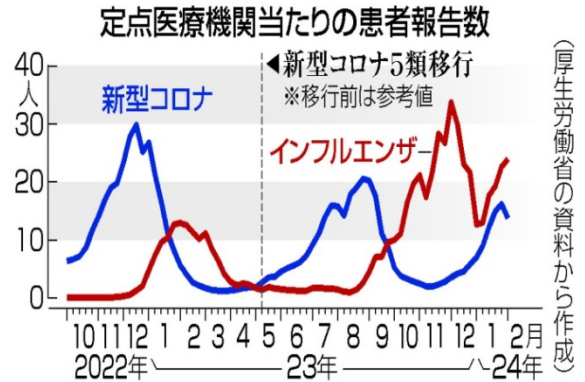
*** 今日の健康 (3月) ***

< コロナとインフル同時流行 >

新型コロナウイルス、インフルエンザ A 型と B 型が同時流行しています。

2023 年末からどちらも患者報告数は高止まり状態で、新型コロナによる入院者数は昨年夏の流行「第 9 波」並みの高い水準となり新型コロナウイルスの流行は「第 10 波」と考えられます。

国立感染症研究所によると、現在日本で主流とみられるのは、オミクロン株の亜種 XBB の一種である HK. 3。XBB 全体の約 7 割を占め、さらに BA. 2. 86 や JN. 1 など新たな変異株が広がっており、対応ワクチンも使われているオミクロン株と類似のウイルスではあるが、性質が異なる変異株の登場が危惧されています。



新型コロナは昨年 5 月、感染症法上の位置付けがインフルエンザと同じ 5 類に移行し、厚生労働省では流行状況について全国約 5000 の定点医療機関からの患者報告数を基に推計し、2 月 11 日までの 1 週間に報告された新型コロナ感染者は 1 医療機関当たり 13. 75 人。都道府県別では、石川 (21. 91 人) が最多で、次に愛知 (20. 06 人) です。全国平均としては約 3 カ月ぶりに減少に転じていますが、流行の「第 10 波」とも言える勢いです。

免疫を回避しやすいとされる新変異株「JN・1」の検出割合が増えていて、同期間に全国約 500 の定点医療機関から報告された新規入院者数は 3257 人で、「第 9 波」と同程度で、重症化リスクが高い 70 歳以上の高齢者が 7 割超を占めています。

インフルエンザは 1 医療機関当たり 23. 93 人で、昨年 12 月上旬のピーク時より約 3 割ほど減ってはいるものの、5 週連続で増えており、最多は福岡 (56. 48 人) で、次に佐賀 (38. 15 人) です。計 44 都道府県が注意報の基準 (10 人) を超えています。

新型コロナの感染拡大はピークを越えつつありますが、依然として再拡大の可能性があると考えられ、インフルエンザの流行は 3 月に入り暖かくなる頃まで続く恐れがあると予想されます。

外出時人混みの場所に行く際はマスクの着用や、帰宅時に手洗うがい、換気といった基本的な感染対策をしっかり続ける必要があります。電車や屋内では換気の継続が重要で、体調が悪い時は自宅療養するなどの拡大防止策が必要です。

前澤クリニック 内科・小児科 0422-30-2861
天文台通り もみじ山公園バス停裏